

みんなの活動だより

2026.9

発行: MISHOP 広報部会

98

スウェーデン出身の落語家・三遊亭好青年さん 「国際理解講座」で講演

国際理解講座「スウェーデン出身の落語家 三遊亭好青年～日本の伝統芸能と多様性～」が、7月26日（日）午後、三鷹産業プラザで開かれ、63人が出席しました。

欧州出身初、スウェーデン人で初の落語家、三遊亭好青年さん（五代目圓楽一門会所属）は1985年生まれ。日本のアニメがきっかけで日本に興味を持ち、中央大学に留学中、落語研究会に入部して落語と出合いました。

「落語は一人で子どもから老人まで何役も演じられるのが楽しい。また『人間は不完全で平等』という悪意の薄い笑いにひかれました」と好青年さん。2016年に三遊亭好楽入門し、厳しい前座修行を経て、2020年、二つ目に昇進。現在、国内だけでなく日本の伝統芸能である落語を紹介したいと海外でも公演しています。

講演は流ちょうな日本語で行われ、社会制度（政治・教育・福祉）や結婚観と家族制度など、多岐にわたって母国と日本との文化や生活様式の違いを話しました。また外国人として「郷に入っては郷に従え」の精神で日本社会に溶け込んでいったこと、日本語を習得するうえで英語を封印し日本語のみの没入環境を作ったこと、AIと落語の将来性など、体験に基づいた話に参加者は熱心に耳を傾けていました。

【感想シートから】

○外国出身で落語できるのはすごいですね。

一度英語落語を聞いてみたいです。日英ス、

3語での小ばなし、おもしろかったです。

○日本語が美しくて驚きました。日本の中高年の男性よりもはっきりした話し方ですね。楽しく聞きました。つらい事もあ

たらうに素晴らしい青年ですね。

○教育のデジタル化が進みすぎたので、逆戻りしている話や、18歳で自己責任となる話、英語に対する感覚の違いなど、共感できる点が多かった。

福祉については日本とは比較にならない事を、改めて感じさせられた。多国籍に関して、彼に全く同感。すべてを移民のせいにする傾向は日本と同じということがよく理解できた。性格が日本人に似ていることは初めて知った。い

きなり落研に入ったこと、入門

したことにビックリ。日本人で

も耐えるのが大変な修行を経験

したことはすごいことだと思う。

多文化共生を地でいっている方

だな、と尊敬しております。



A Lecture for International Understanding, “Swedish Rakugo Performer Sanyutei Koseinen: Traditional Japanese Performing Arts and Diversity,” was held on the afternoon of Sunday, July 26, at the Mitaka Sangyo Plaza.

Koseinen, the first rakugo performer from Europe・Sweden, became interested in Japan through Japanese anime and discovered rakugo after joining the rakugo club while studying abroad at Chuo University. He became an apprentice to Sanyutei Koraku in 2016 and was promoted to the rank of “Futatsume” in 2020. He performs both in Japan and abroad.

Koseinen delivered the lecture in Japanese, and spoke about the differences in culture and lifestyle between his home country and Japan, his efforts to integrate into Japanese society, and his methods for learning Japanese.

がいくせき し みに ほんじん まな 外国籍市民と日本人ボランティアが学んだ ぼうさい で まえこう ざ 「防災出前講座」

ぼうさいでまえこうざ がつ にち かいぎしつ ひら ちゅうごく
「防災出前講座」が6月30日、MISHOP会議室で開かれ、中国、ウクライナ、
ベトナム、フランス、オーストラリア出身の外国籍市民12人と日本人ボランティア
22人が参加しました。

こうざ ひら ぜんはん ほうじん
講座はMISHOPラウンジとして開かれたもので、前半はNPO法人「Mitaka
みんなの防災」の半田さんが講師となって、「やさしい防災ガイドブック」を
きょうざい じしん たいふう とし こうどう そな ぼうさい
教材に、地震や台風の時の行動や備えなど
まな こうはん みたかしょうぼうしよ しょういん
を学びました。後半は三鷹消防署の署員3
にん あいて きんきゅうし つうほう じつちくくんれん
人を相手に緊急時の通報の実地訓練をしました。
さいご びちくしよく まい
最後に備蓄食のアルファ米のリゾット
やパンなどを試食しました。



かんそう 【感想シートから】

がいくせき し みに
外国籍市民

きょう たの さいがい とし なに
○今日は楽しかったです。災害の時に何をす
ればいいか勉強になりました。ありがとう
ございます。

とく ばん でんわ
○勉強になりました！ 特に119番に電話を
かける練習が良かったです。

ほんじん
日本人ボランティア

じしん お とし うご
○地震が起きた時にどう動くのがいいかの

さいかくにん よ かた きゅうきゅうしや よ とし ばんごう し
再確認ができて良かった。ベトナムの方が救急車を呼ぶ時の番号を知らな
かったので、この機会に気づくことができて、安心しました。

ぼうさいでまえこうざ まいかいで こんかい いま ちが たいけんがた おもしろ
○防災出前講座は毎回出ていますが、今回は今までとは違って体験型で面白
かったです。実際に「声に出してみる」のはいい経験でした。楽しかったです。

A “Disaster Preparedness Outreach Workshop” was held on June 30 in the MISHOP conference room, attended by 12 foreign residents from China, Ukraine, Vietnam, France, and Australia, together with 22 Japanese volunteers. In the first half of the session, Handa-san from the NPO “Mitaka Minna no Bo-sai” spoke about actions to take and preparations to make in the event of earthquakes and typhoons. In the second half, participants were assisted by three staff members from the Mitaka Fire Department in conducting a hands-on drill on how to report emergencies.

フェスティバルの ポスターです

みたかこくさいこうりゅう
三鷹国際交流フェスティバルのポ
スターを街中で見掛けるようになりました。
ことし みたかししゅっしん まんが こどく
今年も三鷹市出身で、漫画「孤独のゲ
ルメ」の原作者として知られる漫画家の
くすみまさゆき
久住昌之さんがイラストをかいてくださ
いました。象を中心に動物たちが祭り
たの え こうひよう
を楽しむ絵が好評です。



こうほうぶかい こくさいこうりゅう かいさい がつ
広報部会では国際交流フェスティバルが開催される9月
27日(日)に会場で写真撮影するボランティアを募って
います。お手伝いいただける方はMISHOP事務局にお知ら
せください。

The Public Relations Subcommittee is recruiting volunteers to take photos at the Mitaka International Festival, which will be held on Sunday, September 27. If you are able to help, please contact the MISHOP Secretariat.